

2023・11・19 「九条の会・おおさか」講演会 報告

11月19日、「九条の会・おおさか」講演会は久しぶりのリアルのみの開催となり、各地の九条の会から150人がエル大阪に集いました。

司会は「九条の会・豊中いちばん星」。開会挨拶は「九条の会・おおさか」「おおさか女性9条の会」よびかけ人の石田法子弁護士。閉会挨拶は「九条の会・おおさか」「大阪医科歯科九条の会」よびかけ人の歯科医・中村新太郎さん。ケイ・シュガーさんが平和・いのちを歌い上げ、枚方市「エントツ山9条の会」・大阪市「中央区9条の会」・「茶山台九条の会」がとりくみを報告。

「九条の会」世話人の池田香代子さんが記念講演をおこないました。

「“世界がもし100人の村だったら”から20年～いまこそ憲法9条の出番」

池田 香代子 さんの講演

パレスチナは日本と繋がっている

久しぶりの大阪、女性のファッションがちょっと過激と気づきました。そして大阪の過激な一つのゴミ焼却場のデザイナーは、私が訳した「ソフィーの世界」の表紙デザイナーなのです。ですから、ゴミ焼却場を見たら「ソフィーの世界」の池田佳代子を思い出してください。

もう一つゴミ焼却場から思うのは、ガザです。ガザのゴミ焼却場は私達の税金、日本のODAでつくられた。ゴミ焼却場だけではありません。下水道とかも。ODA 担当者が頑張っ
て現地の方々と協議して、1人1人の外交官の志もすごく反映してるんです。

パレスチナの東京にあるのは代表部と言って大使館ではない。だけど日本と繋がっている。日本のODA、つまり私たちの税金で学校建設、食料支援、下水道やゴミ焼却場をつくってきた。それをイスラエルが壊しています。私達の税金で作ったものを壊しています。日本政府と抗議するべきなのにまったくしない。

イスラエル最大の新聞は無料！！

イスラエルに私が信頼している新聞がありますが、発行部数は実に少ない。イスラエルで、もっとも読まれている日刊新聞は、無料でしかも大変なページ数です。そのお金を出しているのは、アデルソン、カジノ産業です。極右翼。アデルソンはトランプの大口の支援者の1人ですね。その世界の富豪ランキング何位とかの人がイスラエルに肩入れしてるんです。私達になじみの深い企業、マクドナルド、スターバックス、ディズニーなども寄付しています。

イスラエルは西岸地域のパレスチナ人からほとんど土地を取り上げて入植して、入植地に新興住宅街を作る。そしてサンズ、スターバックス、マクドナルドや、ディズニーが公民館を寄付したり、幼稚園寄付したり、小学校寄付したりするんですよ。

ユダヤ人ってそんなに好戦的だったの？と、思ったりしますけれどもそんなことないですよ。ユダヤ人は故郷を追われてから、いろんな国に生活したわけで、誰よりも多様性を重んじ

る人々だった。誰よりも平和にみんなで行きましようよという人々だったんですよ。それなぞ好戦的な人々になったのか、皆さんと一緒に考えられればいいかなって思います。

「第2の人生」を9条のために

九条の会ができたのが2004年。来年は20周年、よく頑張りました。

20年前と言えば、皆さん定年を控えて第2の人生のいろんな夢を見て、まだ元気でやる気満々でした。そこに「九条の会」事務局長の小森陽一さんは目をつけた。そういう人々を組織して死ぬまで働かせようと。団塊の世代をがちりと9条のために組織するっていうのが目論見だったわけ。どうすれば若い人にね、振り向いてもらえるかとか、組織を若作りしようとかも思った方がいいけれど、私達は身の丈に合ったことをして、それで、死ぬまで働けばいいんです、でございます。

でも、ウクライナ戦争といい、ガザ攻撃といい、こんな20年目を迎えるとは、思っておりませんでしたね。歴史の時計が100年、逆戻りしてしまったような、あんまりです。

「100人村基金」をつくったきっかけは中村哲さん

「世界が100人の村だったら」が出たのは2001年の12月。2001年といえば「911」です。私、911が起こるまで、意識低い系だったんです。911が起きて、アメリカはすぐにその首謀者、首謀者かもしれない人を匿っているかもしれないから、アフガニスタンに報復攻撃するんだ、と言いました。意識低い系の私でも、発展途上国では人口の大部分が14歳以下の子どもだということぐらいは知っていました。その子どもが怪我する、何とかしなきゃと思った。思っても、意識低い系ですから何をどうしたらいいかわからないんです。

そのときに小説家の井上ひさしさんが、中村哲さんの講演会に誘ってくださった。水路や療養所を作りましたという報告をして、寄付を呼びかけられました。

「あっそうか」、私にもできるものがある。

「100人の村」を本にしてその印税を中村先生に使っていただこうと思ったのが、100人の村が生まれたきっかけです。

おかげで印税が1億円を突破したんです。ところが税金に4割とられました。あとの6000万円で「100人村基金」をつくって、中村先生には100万円受け入れていただき、お近づきになったわけです。最後にお会いしたのは、お亡くなりになる三、四ヶ月前。「もういつ死んでもいいんだ僕は」「運河の写真入り図面付の本を現地言葉にも翻訳して出すんだ」と。それが最後の本で、もう、大丈夫という体制にされて逝かれた。

「100人村基金」はいろんなところで使っていて、一つ一つに、物語があるんです。アメリカの若者5人ぐらいのグループにも100万円ぐらい使ってもらったんです。2005年は、まだガザがイスラエルの占領下でしたが、占領軍は、建物の上にある給水タンクを面白半分につつんです。電気も水道も全部イスラエル側の手にあって、日に何時間かしか電気も水道も来ない。で、水が出る間に、タンクに上げておいて、それで使う。タンクは命綱。

それに頭にきたアメリカの若者たちが、イスラエル兵が壊しから片っ端から修繕しようっていうことやり始めたんですね。私、タンク100個分のお金をそこに送りました。そしたら、お金を出した人にはそのタンクに何か好きなことを書いてもらうことになってると言ってきたので、英語で「世界がもし100人の村だったら」って書いてもらいました。それが20年近く前です。もう一つも残ってないんじゃないですか。

実効的な力を国際司法裁判所に

イスラエルのやることって、全てが国際法違反です。国際法って、国際司法裁判所ができてからは裁かれるようにはなったけれども、従前の条約違反とかは違反だと言い立てることはできて、それ以上は何にもできない。刑事裁判所っていうのはすごく大きな一歩だとは思いますが。けれども、国家ぐるみでやってる国際法違反って、さばけないんですよ。

だって裁こうとしたら、まずアメリカがベトナム戦争で裁かれます。いろんな国が裁かれます。だから、実効的な力を国際司法裁判所になかなか与えないわけです。国連憲章に違反して、国連決議に違反しても今までイスラエルという国が運営されてきているのには、後ろ立てにアメリカがついているからですよ。

犠牲になっている人の側に立ちたいだけ

ガザ問題では、世界中でデモが起こっています。私もデモやスタンディングとかに参加するんですけど、パレスチナを応援する気もないし、反ユダヤとかイスラエル人はけしからんっていう気もない。だって、イスラエル人＝ネタニヤフではないし、パレスチナ人＝ハマスではない。とにかく犠牲になっている人々の側に立って、この状況は許せないと言いたいわけです。

ところがドイツでは大変で、少しでもガザの肩を持ったりすると、反ユダヤ主義なんじゃないかって批判されちゃう。リベラルならリベラルであるほど、ずっとイスラエルの側に立ってしまうような変なことになってる。ドイツ人は、ナチスの経験があまりにも大きく、イスラエル批判に躊躇してしまうっていうところがあるかもわからない。けれど、ちょっと頭冷やしてほしいなと思います。

日本こそが仲介役になれるのに

日本は最初申し上げたように、その下水道とかゴミ焼き場とか、日本の技術で作ってたんですよ。パレスチナだけではなくアラブ諸国とも、何とかいい関係を保っていたんです。それは日本が90%の化石燃料を、あの地域に依存しているから、アメリカが何と言おうが、中東政策だけは独自の立ち位置を取っていました。こういう立ち位置って、とても貴重だと思います。でもこれも最近、ちょっと怪しいんです。

というのは、2014年、安倍さんがイスラエルに行った時、テルアビブではなくエルサレムで、イスラエルの国旗を後ろに演説した。当時、2人の日本人がイスラム国の人質になっていました。後藤健二さんと湯川春菜さんです。それを知っていながら、安倍さんはテロとの戦いに10億円提供しますって言ったんですよ。そしたらイスラム国は、すぐに2人の命を奪いました。私はあのテロとの戦いに10億ドルっていう言葉が2人の命を奪ったと思っています。

日本だけでは無理だと思うけれど、いくつかの国々と力を合わせて仲裁役を買ってほしいと本当に心から思うんですよ。だって日本はヨーロッパ諸国と違って中東を植民地支配したことがないんですね。

為政者はデモを恐れている

国際的な力が働かなければと思います。そして、世界中で平和を願う人々がデモを、スタンディングを、すべきです。東京で、冷たいアスファルトの上に寝転がるっていうことが始まりました。「デモなんかやったって」って右翼の人たちは言うけども、そんなことない。為政者はデモを恐れているから「デモなんかやったって駄目だよ」って言わせるんです、「効く」ってことの裏返しなんです。この国が変なことになっていかないように、私達、死ぬまで頑張らなきゃいけない。やっていきましょうね。

攻め込まれない政治、外交のちからをこそ

「9条なんて掲げていたら、ウクライナみたいなことになってしまう」という人たちがいるじゃないですか。全然違います。

私達、ここで確認しておきましょう。9条を持っているから攻め込まれるんじゃない。9条は何があっても、他国に攻め込んだりしませんっていう、誓いでしょ。国連憲章に書いてあることそのまま書いただけですよ。それで、国連に入ってる人たちはみんな国連憲章を順守します、って言う。言ってるのに守ってない国がいっぱいあるけどね。

ウクライナ見ていて思った。攻め込まれたらもうおしまいなんです。だから、9条を国是として掲げるのであれば、攻め込まれないような政治をすべきなんですよ。自衛隊をどうするかは別として、攻め込まれないような政治をすべきなんです。だから、9条を掲げる。外務省に予算をつけて、人員を配置したっていい。そして紛争が起きたら、すぐに日本が何かしている。汗かいているというところを見せて、日本という国がこの世界になくってはならないと思ってもらえば、それが一番の安全保障になるわけですよ。

でも、外務省は全然そういう組織ではありません。30年くらい前に大きな組織改編があって、今外務省で一番権力を持っている部署は、日米安保条約を担当する部署だとう、とんでもない組織になってしまっています。日米安保条約、さらにもっと重要なのは地位協定だ、その地位協定を率先して守ることを日本の外務省が始めた。官僚の権力の源泉になってしまっている。それがこの情けない日本の形です。

私たちは負け込んでなんかいません

私達ずっと負け込んでるように思うかもしれないけど、そんなことはない。これやったから

起きていないでしょって証明するって難しいですよ。私達不満分子の根が絶えないからここまでで収まっているということは、実はいっぱいあるんです。それって保険の考え方です。病気になって、派手な外科手術とかで命拾いしてすごい、じゃない。日々の努力によって疾病から免れているっていうのは、目に見えない。だけど、私達はその目に見えない社会基盤を作ってるんですよ。うるさくうるさく言うことをしてスタンディングしたりデモしたりすること、こうやって集まること。それが効いているから、ここまでで止めているんです。だから、大きな声で改憲なんかとんでもないと言いましょ。そして私達の務めを果たしたいと思う。

団塊世代がやるべきこと

私達、戦後の団塊世代が多くて、「戦中生まれ」と言っても小さな赤ちゃんだったりする。でも、直接の記憶や経験はなくても、上の世代からたくさん話を聞くことができた世代ではあります。私達はウクライナやガザのことがあったりしたら、それと照らし合わせて、いったん戦争になったらこういうことですよと若い人たちに、話すことはできる。

今日の配り物の中に、いかに日本の教育予算が少ないかっていうグラフがある。子どもたちの間にお金による格差がどんどんついてくる。ところが敗戦から10年間の日本の教育予算の、GDPその頃はGNPに占める割合は、何と世界一だったんです。焼け野原の中で日本は、教育と子どもたちのためにお金を使ったとても立派な国でした。そのときの教育平和教育を受けたのが私達なんですよ。だから、9条を守っていかなくちゃいけないんですよ、私たちは。死ぬまで頑張りましょ。

(「九条の会・おおさか」事務局で
お話の概要をまとめました)

枚方市「エントツ山9条の会」

私達の地域には、旧陸軍の弾薬製造所の高さ約20m・直径2mの煙突が残っています。町内の建物の間から見通すことができます。名前は、そこに由来しております。毎月ニュースを作り、それを使った宣伝活動を8年間続けています。毎月9日にスーパー内で宣伝活動を続けてきています。

ニュースは、毎月最後の月曜日夕方に事務局員8名が集まり、原稿を手分けします。原稿締め切りは翌月の4日です。事務局会議終了後、1時間も経たないうちにFAXで届く場合もあります。締め切り後の編集が大変でした。皆さんの思いが詰まった原稿は長文となり、収まりません。私が編集を担当するようになったのは、昨年2月からですが、初めのうちは、身を削る思いで修正しました。最近は、投稿者の皆さん、字数がすっきりして、収まるようになりました。

1200部印刷して、10人ほどで配っています。地域内にスーパーは4店舗ありますが、2

ヶ所で交互に宣伝を行っています。一時間ほどの宣伝で約100部。残りは手分けして地域に配っています。

宣伝していますと、3年ぐらい前までは、「攻められたらどうすんねん」とよく攻撃されました。最近、特にロシアのウクライナ侵略の後、そのようなことはなくなりました。

昨年3月に、同志社大学の教授を招いて、学習会を開きましたが、そこで「原発50基もある日本が攻撃を受けたらもう終わりです」という先生の明快な指摘が私達の大きな確信となり、宣伝の力となっています。

この確信と憲法9条が果たしている役割を広げていきたいと思います。そして、ロシアのウクライナ侵略、ガザを一刻も早く終われ終わらせることができるよう力を尽くしたいと思います。また、昨年末に岸田内閣が閣議決定した安保3文書の撤回を目指します。

雨の日も風の日も毎月9日にパレード 18年で連続215回に・・・ 継続は力

大阪・中央区九条の会

「大阪・中央区九条の会」について

「大阪・中央区九条の会」が発足したのは、2005年11月9日でした。前年中央で九条の会が結成されたのを機会に中央区でも結成しようと準備会を重ね、当初9名の目標で医師、弁護士、司法書士、税理士、弁理士、文化人など区内の著名な方々に呼びかけ人のお願いにあがったところ、9名の目標を超えて倍数の18名の方々に就任していただけることになりました。

同じなら発足日も9条に因んで11月9日に発足することになったものです。

当日の記念講演はデザイナーの森南海子さんで「千人針を再び繰り返さないように」と反戦・平和への思いを語っていただきました。以来2～3か月に一回程度のペースで事務局会議を開催。毎年秋に200人程度の規模の講演会を開催してきています。最大の参加者となった

のは九条の会呼びかけ人の小田実さんの時で280名でした。

その後、司法書士九条の会と共催で講演会を開いたり交流を続けてきましたが、6年ほど前からは、商社・市民九条の会や税理士九条の会とも交流。現在では「4者九条の会合同事務局会

議」を開くまでに交流が発展し、9月30日には合同講演会として東京大学の鈴木宣弘教授をお招きして「世界で最初に飢えるのは日本」と題して食料安保に関するお話をしていただき、205名の参加者となりました。

「9の日市民パレード」について

中央区九条の会発足後、日常活動を如何に進めていこうかと検討を進めている時、「来年（2006年）の1月9日から毎月『9の日』の正午に中之島公園に集まって御堂筋でランチタイムパレードをしよう」と辻公雄弁護士から突然の提案がありました。市役所や裁判所の職員の皆さんや淀屋橋・北浜周辺で働いておられる皆さんに気軽に参加してもらえるように「デモ」ではなく「パレード」を30分ぐらいのコースでやろうというものでした。自由法曹団や民主法律協会の弁護士さんも裁判所への行き帰

りに参加してもらえる可能性も・・・と取り合えず一歩足を踏み出しました。

その時は50回ぐらい続ければ情勢も大きく変わっていくだろう・・・と思っておりましたが、なんのその情勢はますます厳しくなって結局18年間、先日の11月9日で215回目のパレードとなりました。真に継続は力なりです。（現在は毎月9日の正午、中之島公会堂前の駅前広場に集合。駅前第二ビルまでパレード）

堺「茶山台九条の会」～1小学校区の「小さな九条の会」のよさ 泉北ニュータウンをむすぶ平和の網の目

**このところ心身の不調つづきたり ウクライナ・ガザのこども思えば
罪のなき赤ん坊への爆撃を 止められぬ世に心の重し**

泉北NTの一番小さな小学校区で

茶山台九条の会は、泉北ニュータウンの1番小さな小学校区の九条の会。2007年に賛同者83名で発足、今年17年目、賛同者は280名となり、世話人6名で運営しています。会費の徴収はなく、運営資金はバザーを行って調達しています。

年1回「平和のつどい」を開催。楽しい文化行事と講演を行います。今年は、マジックショーと、堺共同センターの阪口香月さんの講演。茶山台地

域全戸に案内ビラ3500部を配布し、その中で、まったく見知らぬ新しい自主的な参加や賛同署名があり大きな収穫です。

時折小集会をし、ニュースは年3回、現在77号発行、200部配布しています。バザーは、手作りのアクセサリー類の無償提供があり好評です。茶山台九条特製の一筆箋もあります。バザーはいつも楽しく、今年は小学5年生がかわいい店員になり、「夏休みで一番楽しかった」とうれしい声が聞かれました。

小さな九条の会ですが、地域の方々が「茶山台

に九条の会があり、平和について運動したり戦争反対を訴えたりして大事なことをしている」と評価してくださったり、道で出会ったら戦争や政治の話が日常会話のように相手から自然に出てくるといふ風になってきつつあります。

小森陽一さんが言われた「小学校区の小さな九条の会の良さ」を大切にしていけることが運動の力になると、コツコツと歩み続けています。

一足はやく誕生した「泉北NT 平和ネットワーク」

「九条の会」が発足する1年前の2003年、イラク戦争に戦争反対の声を上げなければと、「泉北ニュータウン平和ネットワーク」が結成されました。太平洋戦争開戦の8の日にこだわって毎月平和宣伝。イラク戦争勃発の3月には毎年平和パレードや駅前スタンディングをし、ともに20年になります。

新聞折込ピラで100人前後の参加があり、平和への思いが根付いてきていると感じます。

「憲法のはなしシリーズ」として講演会や映画会も実施。今年62回目は西谷文和さんの講

演「ウクライナ情勢～世界の行方と私たちの生活」に65名が参加。ウクライナ報告から、国内政治、万博・カジノまで幅広く学習しました。

「日本の青空実行委員会」も

ほかにも「日本の青空実行委員会」は、映画やコンサートなど大きな取り組みを諸団体に実行委員会を組んで実施しています。

11の「九条の会」が手を結びあい

泉北NTには、小学校区単位の「九条の会」が11。休業状態のところもありますが、「九条の会連絡会」で互いに活動を交流したり、高校前や駅前宣伝を全体でとりくんでいます。

そうしたとりくみのたびに、茶山台九条の会のつながりが、強い力を発揮していることを実感しています。身近な人々とのかかわりを大事にすることが平和を守る上で一番大切だと思っています。(池田香代子さんの言葉に呼応して)死ぬまで頑張ります。

青い空は青いままで
平和音楽祭

2024年 **1月11日** (木)
開場 18:00 開演 18:30
会場 クレオ大阪中央・大ホール
大阪市天王寺区上汐 5-6-25

- オープニング・平和の歌を歌う合唱団
- 第1部 小森陽一・「青い空は」を語る
- 第2部 梅原司平コンサート

参加費 3000円

小森陽一
和光学園理事長
東京大学名誉教授
全国「九条の会」事務局長

梅原司平
シンガーソングライター
・1982年に「折り鶴」を発表。
・2022年に歌手活動50周年を迎える。

生きてよかった
それを感じたくて
広島のまちから 私は歩いてきた
苦しみをことばに 悲しみをいかりに
きずついたからにて
ここまで歩いてきた

折り鶴

ほんとうでんしよん 20周年記念

主催・お問合せ 平和音楽祭実行委員会
☎06-6767-6762 e-mail:hot_tani6@yahoo.co.jp

市民公開講座

川口真由美さん
辺野古を語り、反戦を歌う

玉本英子さん
ウクライナ取材して

**沖縄・ウクライナ
2つの現場から
平和を紡ぐ**

国内では政府専断・産経の会による改憲論議や在日米軍基地の強化が進む一方、国外ではロシアによるウクライナ侵襲やパレスチナ情勢が平和を脅かしています。核能を見つめてきた川口真由美さんの戦後報告、玉本英子さんの講演を聴いて沖縄とウクライナの現状に向かい、憲法と平和を考えます。
「おおさか医科・歯科九条の会」は府内の医師会連帯者で構成している有志の会で、憲法九条をとり清かしていくことを求めて活動しています。

川口真由美さん・玉本英子さんは、沖縄県でバウフというお祭りを大々的に、日本・アジアを駆け巡るシンガーソングライター自身の想いや思いが詰まったライブ、そして、沖縄の歴史や文化、そして、平和を紡ぐ。玉本英子さんは、東海大学でウクライナ紛争をめぐって、1994年から2004年まで、ウクライナをめぐって取材、2004年「ウクライナ」映画「折り鶴」公開制作されたアフガニスタン、アフガニスタン、ウクライナ、パレスチナほか国内外のシンナーを取材。

2024年
1月14日(日) 14:00~16:00
M&Dホール 大阪府大阪市東区玉川1丁目2-34
大阪府東区玉川4-5F

事前申込制 定員70人 参加費無料
定員になり次第、締め切ります 申し込みはコチラから

プログラム
14:00 開演
14:10 川口真由美さん 曲披露・辺野古報告
14:50 玉本英子さん ウクライナ取材報告
16:00 閉会

主催 おおさか医科・歯科九条の会
〒556-0071 大阪府東区玉川1-2-33 大阪府歯科医師会管内
TEL:06-6568-7731 FAX:06-6569-0544